

令和２年度 重点目標達成のためのアクションプラン

氷見市立十二町小学校

＜本年度の重点目標＞

目標に向かって、ひたむきにがんばる子供の育成

	アクションプラン１	アクションプラン２	アクションプラン３
重点課題	表現力の育成	思いやりの心の育成	健やかな体づくり
前年度の課題	・学びのステップアップブックを活用して基本形を練習し、「話すこと」「聞くこと」の機会を充実させてきたことにより、相手の話を聞き、自分の思いや考えを話して伝えようとする児童が増えてきた。しかし、相手に分かりやすく伝えようと意識して話したり、相手の話に応じて受け答えしたりすることは、不十分である。 ・自分が行った思いやりのある言動を「ほかほかカード」に書いたり、「ほかほかタイム」で発表したりしたことにより、学校や家庭で相手を思いやる言葉遣いや行動ができる児童が増えてきた。今後は、「いつでも・どこでも・誰にでも」、思いやりのある言動で接することができるように、手立てを工夫する。 ・昨年度は「早寝・早起き」に取り組んだが、早寝については、76％と目標値に達しなかった。児童の実態等から、早寝・早起き等の健康な生活習慣を身に付けるためには、メディア利用の時間を減らすことが必要であることが分かった。自分のメディア利用の仕方について見直し、規則正しい生活習慣を身に付けることができるように手立てを工夫する必要がある。		
具体的な達成目標 (数値目標)	・相手の話を聞き、話題に沿って、自分の思いや考えを話して伝える児童が80％以上 (児童自己評価・保護者評価：４段階評価のＡ・Ｂ評価)	・学校や家庭、地域等で、いつでも誰にでも思いやりのある言葉遣いや行動をしている児童が85％以上 (児童自己評価・保護者評価：４段階評価のＡ・Ｂ評価)	・１日のメディア利用時間が２時間以内の児童が８０％以上（休日は３時間以内） (児童自己評価・保護者評価：４段階評価のＡ・Ｂ評価)
行動Ⅰ (方策)	・学びのステップアップ週間に、学びのステップアップブックの話し方・聞き方から重点項目を決め、学級で取り組むことで、話す・聞くスキルが身に付くようにする。 ・様々な場面で、友達や先生、家族等に自分の考えを話したり、相手の話を聞いたりする「対話タイム」を計画的に設定し、実践の中で話したり聞いたりする力を高める。	・「友達のよいところを紹介しよう」「感謝の言葉を伝えよう」などの目当てを立て、ほかほか週間にカードに記入したり、掲示や放送で全校に広めたりする。 ・水曜日の給食の時間に、「ほかほかタイム」を設け、友達のよい行動や言われて嬉しかった言葉等を発表する。	・年間を通して「すこやかチェックカード」を活用し、メディアの利用時間の目当てをもつようにする。そして、頑張った児童を保健だよりや給食時の校内放送で紹介し、メディアの利用時間を減らすことを意識付ける。 ・理解と実践に結び付くように、メディア利用に関する指導を全体や個別で行ったり、たよりや懇談会、講演会等で、家庭に協力を呼びかけたりする。